

新大

キャンパスライフをもっと豊かに

広報

| 特集 | 卒業生・修了生からのメッセージ

新たな夢へのスタートライン

～たくさんの学びと感謝を胸に～

学長からのメッセージ 新潟大学長 牛木 辰男



No.225

[2023年 卒業記念号]



真の強さを学ぶ。

新潟大学
NIIGATA UNIVERSITY

卒業生、修了生の皆さん、卒業、修了まことにおめでとうございます。

2019年末より流行が始まった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、その後すぐにパンデミック(世界大流行)となつて猛威を振るい、すでに3年が過ぎました。そのため皆さんの大学生活のほとんどすべてが、コロナ禍の中となったことは大変残念なことでした。しかし、それを乗り越えて、皆さんは卒業・修了を迎えることになりました。心よりお祝いを申し上げます。

この3年間のコロナ禍で社会は大きく変わりました。皆さんの授業もオンラインとなり、一時期はキャンパス内への立ち入りまでも制限せざるを得なくなりました。しかし、その中でも、皆さんは学問への情熱を失わず、制約のある中でも課外活動やさまざまなことに挑戦してくださったのは大変うれしいことでした。その結果、晴れて卒業・修了を迎えることができたことは、まさに皆さんの辛抱強い努力の賜物です。そして、それは皆さんの大きな勲章です。

コロナはやがて必ず収束します。それはもう目の前に来ている。その時にどんな新しい世界が我々を待ち受けているので

しょうか。きっと、このコロナ禍や、あるいはウクライナ情勢のように、予測の立たない多くのことに会おうでしょうし、さらにはカーボンニュートラルのように乗り越えなければならぬ様々な課題にも直面するでしょう。しかし、こうした未来の社会を切り拓いていくのは皆さんです。そして、コロナ禍に暮らし、コロナ禍に耐え、コロナ禍で考え、コロナ禍を乗り越えた皆さんには、未来を切り拓く大きな力が備わっています。特に、新潟大学を巣立つ皆さんには、柳の枝のようなしなやかで折れない「真の強さ」が備わっていると私は信じています。皆さんには、新潟大学の理念「自律と創生」を胸に、コロナ後に広がる未来のフロントランナーとして活躍してもらいたいと願っています。

皆さん、新潟大学は皆さんの母校です。ここで学んだ誇りをもって、未来への一歩を踏み出してください。そして、コロナ禍に大学生活を乗り越えた大きな勲章を胸に、どんなときにも失敗を恐れずに、勇気をもって前に進んでください。新潟大学は卒業後、修了後も皆さんとの絆を大切に、皆さんを応援します。

改めて、皆さんの未来に幸多きことを！

皆さんの未来に幸あれ

新潟大学長

牛久保 男



｜特集｜卒業生・修了生からのメッセージ

新たな夢へのスタートライン

～たくさんの学びと感謝を胸に～

卒業生・修了生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

新潟大学での学生生活はどんなものだったでしょうか？

たくさんの学びや出会いがあったと思います。

楽しかったこと、嬉しかったこと、大変だったこと…。

みなさんが学生生活で最も印象に残っていることや、

卒業後の進路選択について教えてください！

教育学部

学校教員養成課程

長谷川 禄高 HASEGAWA Yoshitaka

4年間の大学生活の中で印象に残ったことは新型コロナウイルスによる学生生活の変化です。学業という側面では、実習類におけるリモート化が進み、実際に教育現場に立つことが出来ても私たちの記憶とは全く異なった学生生活を生徒たちは送っていました。

しかしながら、制限された環境の中でも生徒たちの成長する姿を見ることができ、私も大学での研究や課外活動において出来る限りの活動を行い成長することが出来ました。



これからの決意表明

来年からは新潟県の教員として、新潟大学で学んだことを活かし、子どもたちに言葉を学ぶことの重要性和、楽しさを伝えながら、自身も多くのことを子どもたちから学び、共に成長していきたいような教員になりたいと考えています。



人文学部

人文学科

池田 萌々 IKEDA Momo

コロナは収束せず、海外留学の夢は叶いませんでした。それでも言語習得のためのプログラムを履修することで、留学せずとも語学学習に励むことができました。4年次は徐々に対面での授業が増え、交友関係が一気に広がりました。日本文化に関心のある留学生たちと、主専攻である平安文学の知識を武器に活発な交流ができたのは嬉しい発見でした。思わぬ壁にぶつかりながらも、新たな道を模索しながら精一杯駆け抜けることができた悔いのない4年間でした。関わったすべての皆様に心から感謝しています。



これからの決意表明

春からは地元のテレビ局で働きます。メディアの在り方は多様化し、誰もが自由に情報を発信できる時代です。視野を狭めず、柔軟性を持って、私自身が体感してきた新潟の素晴らしさを、全国、世界に発信し、地域活性化に貢献したいです。



工学部

工学科
大塚 彩乃 OTSUKA Ayano

学生生活で最も印象に残っていることは4年生からの研究活動です。長野県の公営住宅について研究をし、何度も現地に赴き調査を行いました。初めての実測調査では分からないことばかりでしたが先生や先輩のご指導の下、順調に進めることができました。また、研究室に行けば共に頑張る仲間がいて、お互いに相談し、励まし合いながら卒業研究に取り組めたことは、オンライン授業が多かった4年間で充実した時間となりました。



これからの決意表明



4月からは新潟大学の大学院に進学します。2年間という限られた時間を大切にし、向上心を持って研究活動に取り組みたいと思います。様々なことに興味を持ち、失敗を恐れず挑戦していきたいです。

医学部

保健学科
松尾 実歩 MATSUO Miho

大学生生活4年間で最も印象に残っていることは保健学科バレーボール部での活動です。先輩・後輩関係なく、放射・看護・検査専攻の様々な方と仲良くさせていただいて、楽しい思い出がたくさんできました。また、幹部を務めたときには、例年とは異なり2人で務めなければならなかったのですが、部員の皆さんの協力や支えの下、部活のモットーである「ゆるく楽しく」を継続することができ、本当に感謝しています。皆さんのおかげで充実した4年間になりました。



これからの決意表明



春から地元の病院で診療放射線技師として働きます。主体的に学ぶ姿勢や思いやりの心を大切にし、一日でも早く患者さんや医療スタッフの皆さんから信頼される診療放射線技師になれるように精進していきます。

理学部

理学科
津守 智也 TSUMORI Tomonari

大学生生活では、1年で偶々参加した新歓・部活動、アルバイトや研究のイベントなど色々なコミュニティの中で様々な人と知り合いました。高校までの出会いとは違い、大きく異なる環境で生活してきた人と接する機会が多く、とても新鮮でした。その中で友人ができ、一緒にお酒を飲んだり、色々な場所に行ったことは良い思い出です。友人がいたからこそ、楽しい時間を過ごせたので、感謝しています。



これからの決意表明



来年度からは大学院に進学します。研究活動やそれ以外の部分においても、多くのことに挑戦し、希少な経験がたくさんできるように過ごしていきたいです。

法学部

法学科
佐藤 としえ SATO Toshie

大学生生活で最も印象に残っていることは、友人との自主ゼミです。毎週司法試験やロースクールの過去問の起案をし、添削し合っていました。入学してから授業がほぼ非対面で、勉強について不安だった時期もありましたが、将来法曹になりたいという同じ目標を持つ友達と勉強する機会がとても刺激になりました。一人ではここまで勉強を続けられなかったと思います。友人には感謝の気持ちでいっぱいです。



これからの決意表明



春からは中央大学法科大学院に進学することになりました。支えてくれる周りの人への感謝を忘れずに、目標である司法試験合格に向けてより一層勉強に励んでいきたいと思っています。

農学部

農学科
伊藤 勇志 ITO Yuji

卒業研究が印象に残っています。私は施設機能工学研究室に在籍していました。研究室には個性豊かなメンバーが在籍しており、日々充実していたと思います。特に印象深いのは、国際会議のポスターセッションに参加したこと。当日はとても緊張しましたが、日々先輩方に練習に付き合ってもらった甲斐もあって、自分の成果を堂々と伝えることができました。貴重な機会を下さった指導教員と大学院生の方々に感謝しています。



これからの決意表明



卒業後は専門分野を活かした職に就きます。まだまだ不束者ではありますが、農業農村地域の発展に向けて貢献できる人材となれるよう、日々精進していきます。

歯学部

口腔生命福祉学科
吉村 実玖 YOSHIMURA Miku

学生生活で最も印象に残っていることは、4年次の臨床実習です。臨床実習では、自分の知識や技術の不足を痛感させられましたが、同期のみんなのおかげで乗り越えることができました。また、担当させていただいた患者さんに「ありがとう!頑張っってね!」などと声をかけていただくこともあり、やりがいも感じることができました。臨床実習では、患者さんに直接関わることができ、4年次はとても成長できた1年でした。



これからの決意表明



卒業後は、関東の診療所で歯科衛生士として勤務します。新潟大学で学んだ歯科と福祉の視点を持ち、患者さん一人一人に寄り添いながら、自分の理想とする歯科衛生士像に近づけるよう日々精進していきたいと思っています。

医学部

医学科
田邊 彩乃 TANABE Ayano

6年間の学生生活の中で最も印象に残っていることは、5・6年次の病院実習です。これまで座学で学んできたことが実際の患者さんに役立っていることを実感し、嬉しく感じました。実習で学んだ知識は、問題演習で学んだ知識よりはるかに鮮明に覚えていて、実際に経験することの重要性を身にしみて感じました。また、実習を通し研修医と関わる機会もあり、自分も1・2年後にはこうなりたいと具体的な目標を持つきっかけになりました。



これからの決意表明



春からは長岡赤十字病院で研修医として働きます。積極的に色々なことにチャレンジして多くの経験を積みたいです。また人との関わりを大切にし、患者さんに寄り添える医師になれるよう頑張ります。

経済学部

経済学科
滝澤 有貴 TAKIZAWA Yuki

1年生の冬、心機一転し幽霊部員だったサークル活動を再開したことが印象に残っています。コロナウイルスが流行し始め、これからの大学生活に強い危機感を覚えたことがきっかけでした。完成された人間関係の中に飛び込むのは勇気が必要でしたし、自分の顔を上げていくには多くの時間が必要でした。しかし、その決断と積み重ねの果てに3年生では当時新設された広報部門のリーダーを任せられ、仕事を通じてサークル全体に大きく貢献できた経験が今の私に繋がっています。



これからの決意表明



卒業後は証券会社に就職し、変化の激しい世界で挑戦し続けることになります。持ち前の好奇心が活きる業界だと思うので、「目の前の人の一番になる」という信条のもと、日々研鑽を重ねていきたいです。

医歯学総合研究科

博士課程 口腔生命科学専攻
浅見 栄里 ASAMI Eri

私が所属している口腔外科は多職種で連携して治療を行うことが多く、日々の臨床や病棟業務を通して、チーム医療の大切さを実感しました。休日には職場の先生方や医療スタッフの方々とリレーマラソンなどのイベントや大会に参加させていただき、仕事以外でも職場の方々と交流できる機会が多く、とても充実した大学院生活を送ることができました。

臨床および研究において、一から指導して下さった先生方、本当に有難うございました。



これからの決意表明



多職種の方々との関わり合いから、信頼関係を築く上でコミュニケーションの大切さを学びました。患者さんに心から信頼していただけるような歯科医師になれるよう日々精進して参ります。

保健学研究科

博士前期課程 保健学専攻
目黒 裕太郎 MEGURO Yutaro

博士前期課程2年次に国際学会で研究発表をしたことが最も印象に残っています。発表はすべて英語で行われるため、私は大学院進学当初から研究と並行して英語学習にも力を入れていました。初めは blanks に苦しみましたが、本番ではなんとか英語でやり取りができるようになりました。これまで長いスパンで複数の物事を並行して進めることが少なかったので、計画することや継続することの大切さに気付くことができました。



これからの決意表明



私は大学院での研究活動の他に診療放射線技師とティーチングアシスタント (TA) のアルバイトを経験しました。今後はそれら研究・臨床・教育からの視点を活かし、広い視野を持って物事に取り組みたいと思います。

現代社会文化研究科

博士前期課程 経済経営専攻
孫 培璽 SUN Peixi (ソン ペイシ)

博士前期課程の2年間で、私にとって、最も印象に残っているのは、論理的思考を身に付けた過程です。研究室の学生たちと一緒に多種多様な研究テーマに携わり、先生方のご指導を受け、研究中の質疑応答を通じて自らの柔軟な発想を培って、論理的に思考して、理路整然と自分の言葉で説明できるようになりました。また、研究やプロジェクトを進めるために、必要な情報を収集し、不可欠な知識を身に付けて、修士論文の作成に向けた小さな目標を明確に立てて、そこに至るまでの計画を立案し論文完成を目指していきます。



これからの決意表明



今まで新潟大学で学んだ知識を糧に活躍し、会社に貢献できるよう自分のやるべきことを精一杯頑張っていく所存です。これから私自身も前向きに奮闘努力を続けて難関を突破していきたいです。

創生学部

創生学修課程
村山 美友樹 MURAYAMA Miyuki

大学1年次の6月に創生学部の学修室で『震災ビッグデータ』という本に出合ったことです。東日本大震災当時の混乱がデータを用いて可視化されていることに感銘をうけ、将来はデータを用いて防災・減災に役立つ何かをしたいと考えようになりました。文系出身でしたが、そこからデータサイエンスの勉強を始め、統計や機械学習など、様々な知識を身につけました。コロナ禍で個人の時間が増えたので情報系の資格試験にも挑戦し、自主的に学ぶ姿勢が身に付きました。



これからの決意表明



卒業後は他大の大学院に進学し、サービス工学を専攻します。学べる環境に感謝しつつ、創生学部で見つけた「面白い!」ことをさらに突き詰め、社会に貢献できる人材になれるよう精進していきます。

自然科学研究科

博士前期課程 数理物質科学専攻
八代 真理子 YATSUSHIRO Mariko

3年間の研究生活全てが印象に残っています。私が研究室に所属したばかりの頃は、毎日が「分からない」「できない」の繰り返しでした。しかし、研究を進めていくうちに知識と経験が少しずつ積み重なり、何もできなかった自分が成長していることを実感できました。コロナ禍で制限の多い日々でしたが、最後に対面で学会発表ができたことはとても嬉しかったです。そしてこんな私に根気強く指導してくださった教授と、研究室の皆さんには感謝してもしきれないです。



これからの決意表明



新潟大学での6年間で、多くの学びと経験を得ました。社会に出てからも、変わらず日々精進し、私たちの生活を豊かにするものづくりがしたいと思っています。

教育実践学研究科

教育実践開発専攻 (教職大学院)
田村 友教 TAMURA Tomonori

課題研究が印象に残っています。課題研究では、理論と実践の往還の中で俯瞰的・客観的に考察する面白さを経験しました。また、様々な院生の研究や教職大学院の先生からの的確で鋭い指摘等を通して、自分にはない見方や考え方にたくさん出会いました。多様な見方や考え方に触れるだけでなく、自分の見方や考え方を問い直していくことで、新たな学びへと繋がっていくことに気がきました。「〇〇はこうあるべきだ」と固執せず、見方・考え方を広げ、「これから」を見据えた教育を目指していきたいです。



これからの決意表明



2年間の教職大学院での学び直しを通して、教職の魅力と奥深さ、そして何より教師という仕事のやりがいを感じることができました。教職大学院での学びを発揮していくとともに、教職の素晴らしさを伝えられるようにこれからも学び続けていきたいと思います。

医学部

保健学科
山田 麗華 YAMADA Reika

中学生の頃に病院で臨床検査技師の方に心電図や超音波検査をしていただいた経験をきっかけに、臨床検査技師という職業を知りました。そして昔から興味があった検査を通して、人を助ける仕事がしたいと思い目指すようになりました。診断や治療方針の要となり、医師と患者さんを繋ぐ存在になりたいという思いから病院への就職を目指しておりましたが、4年次の病院実習を通してより一層その気持ちが強くなりました。



これからの決意表明

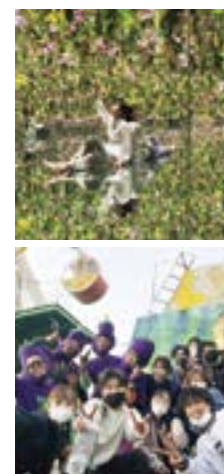


春からは地元の新潟を離れ、臨床検査技師としての一歩を踏み出すことになります。大学生活で学んだことを活かしながら、患者さんにも他の医療従事者の方にも信頼される存在になれるよう日々精進していきたいです。

理学部

理学科
志摩 亜弥音 SHIMA Ayane

就職情報サービスを使いながら就職活動を行う中で、企業と人を繋げる職業である人材業界に興味を持ちました。塾講師のアルバイトの経験から、人の人生のターニングポイントに携わりたいという思いもありました。また、都会に比べて地方の就活生のハンデを感じ、「もっとこういうサービスがあったらいいの。」と考えていたことを形にしたいと強く思うようになりました。春からは地方の大学生の就職活動の手助けとなるようなセミナー開催や企業へのインターンシップ提案に関わりたと思います。「志摩さんに任せて良かった。」と思ってもらえるような存在になりたいです。



これからの決意表明



筋道を立てて論理的に考える力や、ものごとを一方面からではなく、切り口を変えて見ることなど、大学の研究活動では学びにつながるものが多くありました。仕事だけでなく、今後の人生の糧にして、日々努力していきたいと思います。

法学部

法学科
武田 いぶき TAKEDA Ibuki

私は、法学部の授業の「新潟市の行政」をきっかけに新潟市職員を目指し始めました。その授業では、新潟市の政策について職員の方からお話を聞くことができるのですが、私自身、町おこし関係の団体に所属していたこともあり、特にまちづくりの政策に興味を持ち、その政策に関わりたと思うようになりました。試験勉強で辛い時も、新潟市職員として働きたいという思いで乗り越え、採用内定をいただくことができました。



これからの決意表明



私は4年間、先生方や友人、家族などたくさんの方々に支えられ、充実した大学生活を送ることができました。4月からは市役所職員として、今度は自分が誰かを支えられる人になれるよう日々精進していきます。

人文学部

人文学科
箭内 大悟 YANAI Daigo

卒業後、私は仙台市の職員として働きます。出身は福島県で、他県での生活を体験してみたいと思い新潟大学へ進学しました。しかし、福島県をはじめとする東北地方出身の地元想いの友人が多かったこともあってか、大学生活を送るにつれ、一度は離れた東北地方に貢献したい、という思いが強くなりました。そこで東北地方唯一の政令指定都市である仙台市のさらなる発展に助力することで東北地方に貢献したいと考えたため、この進路を選択しました。



これからの決意表明



現在東北地方は人口減少や過疎化など、様々な社会問題を抱えているのが現状です。仙台市での成功事例を活かし、東北地方が抱える問題を解決するという意識を忘れず、日々の業務に勤めたいです。

歯学部

歯学科
菅沼 雄大 SUGANUMA Yudai

私が卒後の進路を選択したきっかけは、5・6年次の臨床実習です。実習では実際に患者さんとコミュニケーションをとり、先生方の手厚いご指導の下、様々な経験をさせていただきました。お口の健康は毎日美味しいものを何気なく食べることだけでなく、身体全体の健康にもつながることを肌で感じ、患者さんがいつまでも美味しく食べられるようなお手伝いをしたいと思い、この進路を選択しました。



これからの決意表明



患者さん1人1人に寄り添いながら、その方のニーズに合わせた治療を選択するために、正しい知識と技術を身につけ、信頼される歯科医師になれるよう、日々精進したいと思います。

医学部

医学科
小幡 尚輝 OBATA Naoki

卒業後は新潟市内の初期臨床研修病院で働きます。その病院での臨床実習の際、外来で問診や診察などを数多く経験し、先生方から熱心な指導をいただき成長を実感できました。指導医の先生の知識や技術に加えて、考え方、患者さんとの関わり方に感銘を受けたことが進路を決めるきっかけになりました。日々成長し、生まれ育った新潟県に医師として貢献していきます。



これからの決意表明



診療科は決めていませんが、患者さんと長く寄り添える医師が目標です。医学、医療はこれからも日々発展していくと思います。これから始まる医師人生、常に学び続けること、挑戦し続けることを忘れずにいたいです。

経済学部

経営学科
大平 唯 OHIRA Yui

講師職を志望したきっかけは塾での経験です。真剣に一人一人と向き合う先生方に初めはただ凄いと感じました。その後の家庭教師のアルバイトを通じて、学生と勉強し受験を見届けることにやりがいを感じました。講師を仕事にする覚悟や自信がなく、一度は公務員試験に向けて就活を進めましたが、申し込み直前で今挑戦できることをやりたいと考え直しました。周りには頼りつつですが、行動力に自信がついたと思います。



これからの決意表明



卒業後は学生に勉強を教える講師職に就きます。どんな職業でも社会人になるからといって急にレベルアップするわけではないと思います。自分は変わらず自分なので、焦らずに少しずつ挑戦していきたいです。

教育学部

学校教員養成課程
阿部 愛 ABE Ai

私はピアノと津軽三味線を幼い頃からやっています。次第に、私が今まで親しんできた音楽の魅力を多くの子どもたちに伝えたいという気持ちを抱き、小学校教師を目指すようになりました。3年次の教育実習では、大変なことももちろんありましたが、それ以上に子どもたちと一緒に授業をしたり、交流したりすることが楽しかったです。私はこの教育実習で、これまでの夢だった小学校教師になろうという気持ちを強く固めました。



これからの決意表明



小学校から大学までの15年の学生生活を終え、社会人1年生として一歩踏み出すことに不安もありますが、同時に大きな期待もあります。大学での様々な経験を活かし、教員として子どもたちと共に学び続けていきたいです。

Q2 卒業後の進路を選択したきっかけを教えてください。

保健学研究科

博士前期課程 保健学専攻
松田 瑞葵 MATSUDA Mizuki

新人・後輩看護師との関わりを通し、患者さんの病状や、人柄、置かれている状況など、患者さん個々の状況に意識が向けられるよう指導を行うことの難しさを感じると共に、日々自信をもっていく後輩たちの姿をみて、看護師が自信をもって働けることは、患者さんの利益にもつながると感じ、看護教育への興味を持ちました。看護師教育のためには、まず基礎となる看護基礎教育を十分に理解する必要があると感じ、看護教員の道を志しました。



これからの決意表明



学生1人1人と丁寧に向きあい、どのような看護師になりたいのか、どのような看護をしたいのかを共有しながら、自身と目標をもって看護の道に進めるように支援できる教員になりたいと思います。

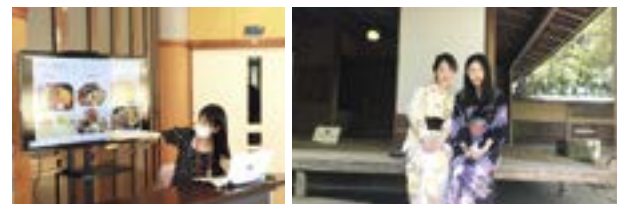
現代社会文化研究科

博士後期課程 共生文化研究専攻
趙 蓉俊子 ZHAO RONGJUNZI
(チョウヨウシュンコ)

きっかけはこれまで恵まれてきた先生方です。気さくに話すことを許してくださった先生方、ロータリー米山奨学会、家族や友人たちは、私を力強く支えてくれました。

私は今対照言語学の研究をしています。この研究を通して、両国の言語における交流や習得に役立てます。分かりやすく日本語を教えて、日中両言語に微力ながら力を入れたいと思います。

新潟大学で学んだことを胸に抱き、この先の未来へ走り出したいと思っています。



これからの決意表明



修了後は母国に帰って大学の教員や研究機関の研究職を目指します。初志貫徹して、これまで新潟大学で学んできたことを生かしたいです。自分の故郷青島と新潟の繋がり役割を果たし、架け橋になりたいと思います。

創生学部

創生学修課程
朝岡 大翔 ASAOKA Hiroka

私が卒業後の進路を決めたきっかけは、創生学部内講義の一つである、フィールドスタディーズ (FS) です。FSでは、1年次に2ヶ月間企業を訪問させていただきます。その中で社会を支えるITの魅力を知ったことが進路選択の決め手となりました。4月からは日本を中心となって支える企業にシステムエンジニアとして就職します。1年次に抱いた将来像を胸に刻みながら社会に貢献していきます。



これからの決意表明



大学、特に創生学部では自分で決断することの難しさと、それを達成する喜びを学びました。社会人になっても責任ある判断を心がけていきたいです。

工学部

工学科
齋藤 雅紘 SAITO Masahiro

卒業後は新潟大学の大学院へ進学します。高校生の時に超伝導体の研究に興味を持ったことがきっかけとなり、大学院へ進み研究者を目指すことを決意しました。実験が好きだったこともあり、入学時は材料開発に携わる研究に関心がありました。しかし、大学での講義や四年次の研究活動を通して物理学の基本的な原理から物質の多様な現象を理解する楽しさを知り、現在所属する研究室で理論研究に取り組みたいと思うようになりました。



これからの決意表明



学部卒業は研究者になるという目標への第一歩に過ぎません。大学院での勉強や研究の中で多くの苦難に直面することになると思いますが、四年間の原動力となった好奇心や熱意を忘れずに勉学に励んでいきたいです。

医歯学総合研究科

修士課程医科学専攻
田邊 ひかる TANABE Hikaru

修了後は化学系企業の技術職に就きます。大学では化学を専攻し、大学院では医科学に挑戦しました。大学で学んだこれらの知識を活かし、さらに新たな科学分野に挑戦したいと考え、多分野の製品を扱う企業での研究開発を選択しました。大学院での新たな分野への挑戦は、知識面・生活面ともに困難もありましたが、周りの人に支えられ、自分自身大きく成長できたと感じています。これからも様々なことに果敢に挑戦し、自ら成長できる人材になりたいと思います。



これからの決意表明



大学院で学んだ2年間は、一喜一憂しながら真摯に研究に向き合えたかけがえのない時間でした。この経験を糧に、これからも様々な分野に挑戦し、社会にとっても自分自身にとっても明るい未来を創っていききたいです。

自然科学研究科

博士前期課程 電気情報工学専攻
長南 文理 CHONAN Hisataka

私は東日本大震災やコロナ禍をきっかけに、人と人を繋ぎ、社会を創り上げる情報通信の分野に興味を持ち、関連する企業のインターンシップに参加しました。この経験のなかで、情報通信技術が現代の生活に密接していることや、あらゆる業界の発展に欠かせないことを知り、将来の仕事に夢を抱くようになりました。最終的には、業界における影響力の大きさや、目標となる社員さんとの出会いが決め手となり、現在の就職先を選択しました。



これからの決意表明



春からはプロジェクトマネージャーとしてシステム構築に携わります。チームを信頼の輪で繋ぐ存在であるように、また、お世話になった方々への恩返しができるように、仕事を通じて社会に貢献することを誓います。

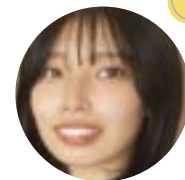
教育実践学研究科

教育実践開発専攻 (教職大学院)
山崎 暁帆 YAMAZAKI Akiho

私は高校時代から教師になるのが夢でした。教職大学院では長期的に実習へ行くことができたので、大学で理論を学びながら実習校で実践し、教師になるための力をつけることができています。辛いこともたくさんありましたが、経験豊富な先生方や、同じ夢をもつ友達が身近にいたことで、教師になりたい気持ちがより強くなりました。4月からは教師として教壇に立ちます。生徒のたくさんの笑顔に出会えることが今から楽しみです。



これからの決意表明



「先生の授業面白い!」と生徒に言ってもらえるよう、現場に出ても授業研究を続けて、生徒に合ったより良い授業を探していきたいです。また、生徒の成長に寄り添っていけるような教師を目指します。

農学部

農学科
清宮 碧海 SEIMIYA Tamami

卒業後は林業系職員として働きます。きっかけは専門学校で流域治水・保全について学んだことです。昔から海の自然が好きでしたが、海を守るためには森林も重要であるを知り、森林に興味を持つようになりました。そして、特に興味のある森林での斜面災害について学ぶため、新潟大学に進学しました。大学で学ぶ中で、専門学校での学びを活かしつつ、森林災害対策に携われる仕事がしたいと考えるようになり、この進路を選択しました。



これからの決意表明



自然環境の保全だけでなく、災害の危険にどう対応するのかという新たな視点を得ることができた貴重な大学生活でした。大学で深めた学びを存分に役立てられるよう、これからも日々学び続けていきたいと思っています。



新潟大学全学同窓会

臼杵勇人会長インタビュー

全学同窓会の活動について、
臼杵勇人会長にインタビューしました。



全学同窓会の理念や目標について教えてください。

全学同窓会の目標は、「新潟大学の発展と社会への貢献に資すること」「学生への支援を行うこと」「会員相互の交流と連携及び親睦を図ること」などです。この目標達成に向けて、会員への情報提供やサービスを充実し、大学の発展・社会貢献を推進して、「会員にとって同窓会の存在が実感できる同窓会づくり」、「母校とそこで学ぶ学生さんを支援できる力量ある同窓会づくり」を進めたいと考えています。

全学同窓会の活動や事業について教えてください。

広報紙「雪華」の発行、ホームページやメールマガジンの配信、年に一度「全学同窓会交流会・講演会」（大学と共催）の開催、大学との懇談会の開催、「新潟大学カード」（クレジットカード）事業、大学への支援事業、学生さんの部活動やサークル活動を支援するための「雪華支援事業」などを行っています。

昨年はコロナ禍ではありましたが、参加人数を制限し、感染防止対策をしっかり行った上で全学同窓会交流会・講演会を実施することができました。また、雪華支援事業では、21団体に269万円の支援を行うことができました。「新潟大学カード」は、入会費・年会費無料のクレジットカードです。多くの皆様にご利用いただき、収益を大学や学生さんの支援に充てています。皆様方にも卒業を機に是非ともご入会をお願い申し上げます。

卒業したら…

新潟大学カードに入会しよう！

新潟大学カードはVISA付きの国際カード

新潟大学カードに関するお問い合わせは…

新潟大学全学同窓会事務局 TEL:025-262-7891

（受付時間 平日10:00～15:00） E-mail:n-doso@adm.niigata-u.ac.jp

入会費・
年会費無料



学生、卒業生に一言お願いいたします。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の施策のため、学生生活が大きく変わり、本当に大変だったであろうと推察いたします。授業がオンラインやハイブリットで行われたり、サークル活動も三密を避けるために休止を余儀なくされたりしたのではないのでしょうか。

同窓会は、母校の教育・研究が成果を挙げ、評価が一層高まることを願っています。そして何よりも教職員、学生の皆さん一人一人のご努力・ご活躍を支援するとともに、卒業後それぞれの社会生活の中、大学で育んだ力を発揮して活躍されることを期待し、応援しております。

新型コロナウイルス感染の収束が見通せない中、卒業生の皆様にとっては本当に辛く苦しい一年だったとお察しいたします。「ピンチをチャンスに変えて」卒業される皆様の前途に幸多かれと祈るとともに、ますますのご活躍、ご健勝を祈念申し上げます。

【新潟大学全学同窓会HP】 <https://www.niigata-u-dousou.jp/>

【新潟大学全学同窓会事務局】

TEL:025-262-7891（受付時間 平日10:00～15:00） FAX:025-262-7892

E-mail:dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp

創立75周年記念募金のご案内

学長メッセージ

新潟大学は、昭和24年5月に国立学校設置法公布により設置され、令和6年をもって創立75周年となります。この間、本学の理念である「自律と創生」のもと、教育、研究、社会貢献という見地から、地域のみならず世界の発展に資する「知の拠点」としての役割を果たしてまいりました。

令和3年2月には、激動の21世紀の社会の中で必要とされ、さらに輝き続けることを目指し、将来ビジョン2030を公表し、次世代の人材育成と科学の発展に寄与し、社会に貢献して参る所存です。

この度、創立75周年を契機に、将来ビジョンの実現とともに、今後も学生支援の充実と地域社会に開かれた大学を目指すため、五十嵐・旭町キャンパスの健康スポーツゾーンの整備を進めることとし、その実現に向け創立75周年記念募金を創設する運びとなりました。

皆さまにおかれましては、記念募金の趣旨にご賛同の上、ぜひとも新潟大学へのご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

新潟大学長 牛木 辰男



■お申し込み方法

WEBサイト内「寄附・サポート」ページ上のお申し込みフォームによりお手続きすることができます。

ご入金方法は以下から選択いただけます。

- クレジットカード
- ネットバンキング（Pay-easy 利用）
- 銀行振込 ●郵便振替 ●コンビニ決済

■基金の概要

■趣旨：創立75周年を契機として、五十嵐・旭町キャンパスの健康スポーツゾーンの整備や新潟大学将来ビジョン2030の実現に向けた取り組みを推進することで、次世代の人材育成と科学の発展に寄与し、社会に貢献することを目的としています。

■募集期間：令和10年3月まで

■目標金額

令和6年度に向けて…5億円 令和9年度まで…10億円

◇詳細は、ホームページをご覧ください。

【お問い合わせ先】新潟大学サポーター連携推進室

TEL:025-262-6010（平日9:00～17:00）

E-mail:kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

個人情報の取扱いについて

■新大広報では皆様からお預かりした個人情報につきまして、責任をもって管理することをお約束いたします。

■アンケートや誌面へのご意見、掲載希望他、お預かりした個人情報は新大広報の企画の参考にさせていただきます。この目的以外に使用したり、第三者に提供したりいたしません。

新大広報 Back Number

新大広報のバックナンバーは新潟大学ホームページで公開しています。

また、学務部学生支援課で受け取ることもできます。

新大広報

検索



Follow us!

新大広報公式
Twitter



新潟大学公式 SNS



Twitter



Instagram



Facebook

2023年 卒業記念号 [No.225]

2023年3月発行

編集・発行／新潟大学学務部・新潟大学広報室

印刷／㈱第一印刷所



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

新潟大学ホームページ

<https://www.niigata-u.ac.jp/>